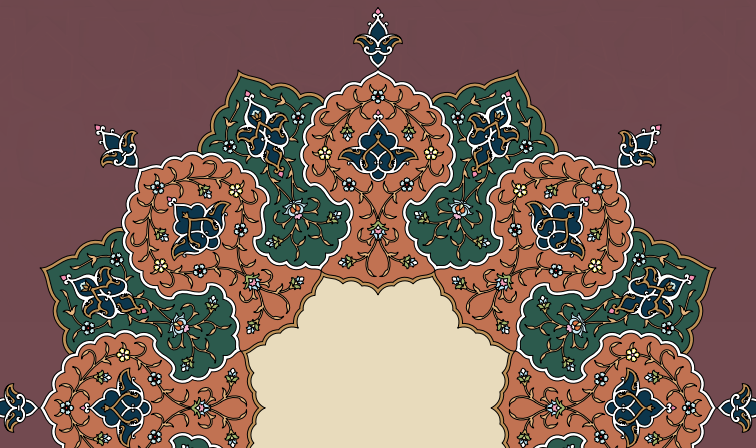




イス イスラムの預言者





預言者としてのイエス



ムスリムは、イエス(彼の上に平安あれ)はイスラエルの子らを新たな聖書によって導くために遣わされたアッラー(神)の預言者であると信じています。もとよりアッラーの遣わしたすべての預言者たち、使徒たちを信じることは、イスラムの信仰においては基本中の基本です。ムスリムの聖典であるクルアーンには、次のとおり記されています。「[ムハンマドよ、]言いなさい。『私たちはアッラーと、私たちに下されたものとの信じます。またイブラーヒームと、イスマーイールと、イスハークと、ヤアクブと、諸々の支族とに下されたものを。またムーサーと、イーサーと、預言者たちとに、主から与えられたものを。私たちは、彼らの間で誰のことも分けへだてはしません。私たちは、御方のムスリムとなります』。』(クルアーン3章84節)

イスラムにおいて、イエスはムハンマドに先立つ預言者とみなされており、またムスリムたちからは、ムハンマドの到来を予告していたと信じられています。イスラムの教義にしたがうなら、すべての預言者たちが教えていた宗教とは、その最初から一貫し

て、唯一無二の神に対する平和的な帰依を意味する
イスラムでした。

クルアーンの別の聖句(5章46節)は、イエスが神
の御前で、モーセのような以前の預言者たちに従っ
たことを伝えています。「またわれらはマルヤムの子
イーサーを彼らの足跡に続かせて、彼以前の[啓典で
ある]律法の中にあるものを確認させた。また、われ
らは彼に福音を与えた。その中には導きと、光と、彼
以前の律法の中にあるものの確認と、畏れる者への
導きと、教示とがある」。(クルアーン5章46節)

イエスの名はクルアーンに25回登場します。彼は
また、尊敬をこめて「マリアの子」、「救世主」、「アッラ
ーのしもべ」、「アッラーの使徒」といった呼び名で言
及されてもいます。「神の言葉」「神の霊」「神のしる
し」であるとも説かれており、15の章にわたり敬慕に
満ちた多くの言及がなされています。

マリアとイエスの処女降誕



ムスリムはイエスとその母マリアを尊重し、尊敬
しています。多くのムスリムが自分の息子や娘にイ
ーサー(イエス)、マルヤム(マリア)と名づけるほど
です。クルアーンにはマルヤムという章題の章があ
り、また彼女の父であるイムラーンの名で呼ばれる
章もあります。クルアーンによると、マリアは貞淑な



無垢のおとめであり、奇跡によってイエスを出産しました。「天使たちがこう言った時のこと。『マルヤムよ。本当にアッラーはあなたを選び、あなたを清浄にした。諸世界の女性の上に、あなたを選んだ。……』」(クルアーン3章42節)

ムスリムは、イエスが高潔なおとめから生まれたと信じています。しかしイエスの処女降誕を、イエスの神性の根拠として受け入れているのではありません。「彼女[マルヤム]は言った。『主よ。どうして私に男の子ができるでしょう、誰も私に触れていないのに』。彼[天使]は告げた。『このように、アッラーは御心のままに創造する。何ごとかを決めるとき、それにただ『在れ』と告げれば、それは在る。』」(クルアーン3章

47節)「アッラーの御許のイーサーは、例えるならアダムと同じようなもの。御方は彼[アダム]を泥から創造し、そののち彼にただ「在れ」と告げると、彼は在った」。(クルアーン3章59節) 奇跡というなら、父親ばかりか母親もなく誕生したアダムこそより奇跡的であるといえるでしょう。「それから、[ついに]彼女はその子を抱いて彼女の民へとやって来た。彼らは言った。『マルヤムよ。本当にあなたは、驚くべきことをしてかしたものだ。ハールーンの姉妹よ。あなたの父は悪人ではなかったし、あなたの母も不貞ではなかったのに』。そこで彼女は、その子を指さした。しかし彼らは言った。『どうして私たちに、ゆりかごの中の幼な子と話せようか』。」奇跡が起きたのは、その時でした。自分の母を弁護するために、生まれたばかりの赤子であるイエスが語り始めたのです。

「[そのとき、]彼[幼な子]が言った。『本当に、私はアッラーのしもべです。御方は私に啓典を与え、私を預言者にしました。また私を、どこにしようとも祝福される者とし、また生きている限り、礼拝と喜捨をするよう命じました。私が母をいたわるようにし、私を傲慢で不幸な者にはしませんでした。それゆえ私に平安がありますように、私の生まれた日に、私の召される日に、私が生きてよみがえらされる日に』。」

(クルアーン19章27節から33節)



イエスの奇跡



イエスが起こしたすべての奇跡は、神の許しを得てのことでした。神の思し召しによる奇跡の数々は、彼の探求を助けるものとなりました。「『私[イエス]は、あなたがたの主の御しるしをもってあなたがたのところへ来た。私はあなたがたに、泥から鳥の形を作ろう。私が息を吹き込むと、アッラーの思し召しによって、それは鳥になるだろう。私はアッラーの思し召しによって、目の見えない者、患う者をいやし、死せるものを生き返らせよう。あなたがたが何を食べ、何を家に蓄えるかを報せよう。本当にその中には、あなたがたのための御しるしがある、もしあなたがたが信仰者なら。私は、私より以前の律法を確認し、あなたがた

に禁じられていた諸々の一部を、あなたがたのために合法としよう。私は、あなたがたの主の御しるしをもってあなたがたのところへ来た。それゆえアッラーを畏れなさい、そして私に従うといい。本当にアッラーは私の主であり、あなたがたの主。それゆえ御方に仕えなさい、これこそはまっすぐな道』。(クルアーン3章49節から51節)

神ではなく、神の子でもなく



ムスリムはイエスを、神の子あるいは神とはみなさず、他の預言者たちと同様に、普通の人間の中から神に選ばれ、そのメッセージを、彼の民であるイスラエルの子らに広めた者であると考えています。イスラムは神に同位の何ものかを併置することを禁じており、神の唯一性という概念に重きを置いています。クルアーンには、以下のように記されています。

「御方に例えられるものは何ひとつない(クルアーン42章11節)」「並ぶものは何もない御方(クルアーン112章3節)」。

負われなかった十字架



三位一体説を支持するキリスト教徒の人々は、イエスは神ご自身または神の一部であり、地上に到来して十字架を背負わされ、十字架にかけられることによって私たちの罪を浄め、そののち復活すると再びこの地上に戻るまで昇天したものと信じています。

ムスリムは、イエスが十字架にかけられて死を迎えたとは信じていません。アッラーは彼を救い、他の誰かが彼に代わって十字架にかけられたものと信じています。クルアーンには以下のように記されています。「……また彼らの『本当に私たちは、マスーフこと、マルヤムの子イーサー、アッラーの使徒を殺した』という言葉のために。彼らは彼を殺しておらず、十字架にかけてもいない。彼らにはそう見えたというだけ。このことについて相争う者たちは、確かにこのことに疑いを抱えている。彼らには、このことについての知識はない。彼らはただ推測に従っているだけ。彼らが彼を殺していないのは確実なこと。いいや、アッラーが彼を御身に引き上げたのである。アッラーは威力あり、賢明である」。(クルアーン4章157節、158節)

これらの節にある「彼らは彼を殺しておらず、」「アッラーが彼を御身に引き上げた」という言葉をどう解釈するべきかについては、意見の相違がありま

す。一部の人々は、イエスは通常の意味での人間の死を経っていないと考えています。彼は生きた身体ごと天上に召されたという見方も、多くの人々が共有するところです。それ以外にも、彼は死を迎えたものの、それは十字架上の出来事ではなかったとする主張もあり、またアッラーが彼を「引き上げた」とは、彼を殺そうとした人々の手から、アッラーが彼を救ったという意味であるとも考えられています。

イエスが天に召された理由



ほとんどのキリスト教の宗派において、アダム
の罪とイブの不従順がその子孫に引き継がれてお
り、したがって人類全体は生まれながらにして原罪
なるものを負っていると信じられています。また、そ
のために神の子が十字架にかけられ、人類の贖罪
のために命を落としたということを信じない限り、救
済は不可能であるとされています。

ムスリムは、イエスが人類の罪ゆえに命を落とし
たとも、またそうすることで人類の罪を清め、人類に
赦しをもたらしたとも信じていません。人間は原罪を
負っているため本質的に悪であるというキリスト教
の教えとは対照的に、すべての人間は無垢な者とし
て生まれ、故意の犯した罪のみが罪とされるという
のが、イスラムの教えです。イスラムには生まれなが
らの原罪という概念は存在しません。

イスラムにおいて、罪とは決して自分以外の他者に背負わせることも、また他者があがなうこともできないものであると信じられています。すべての個人は、自分の行為に対してのみ責任を負います。神は決して不公正なことはしないからです。クルアーンは、すべての個人は自分の行為に自分で責任を負う独立した者であることを明白にしています(17章15節)。原罪がない以上、原罪からの救済も不要となります。



DİYANET İŞLERİ BAŞKANLIĞI
トルコ共和国 宗教庁
THE PRESIDENCY OF RELIGIOUS AFFAIRS
رئاسة الشؤون الدينية



TOKYO CAMİİ
東京ジャーミイ
TOKYO MOSQUE
جامع طوكيو

151-0065 東京都渋谷区大山町 1-19
03-5790-0760
www.tokyocamii.org